

2024_3_30

宮城野支部岩切 TG 会総会・懇親会

会計担当 嘉藤和男

「校歌は今日は何番まで？」と誰かが言った。

平成 6 年 3 月 2 日土曜日午後 7 時仙台市岩切東コミュニティセンター大広間、岩切 TG 会の総会・懇親会は大詰めを迎えていた。

総会の司会進行を担当した鈴木健治幹事長から懇親会司会としてバトンタッチを受けていた私は「今日は 3 番まで歌いましょう」と間髪を入れずに言った。会場のどこからともなく「おう！」と声が上がった。

思えば、今日は実に 4 年ぶりの総会・懇親会。コロナ禍が未だ燻っている中、出席者こそいつもよりも少なかったが、全員の胸の内には「ようやくヤれたなあ」という安堵感が広がっていた。

数時間遡って、この日の午後 2 時、久しぶりの対面での総会を目の前に、少し早めに集合した役員は、はやる心を押さえ、開会までの一つ一つの手順を慎重にこなしていた。

午後 2 時 30 分受付開始を待ちかねたように会員は次々と入場。外はずいぶん冷え込んでいるとみえて、手にフーフーと息を吹きかけながら入場してくる。受付では、総会資料と、校友課三澤康士係長の計らいによりご提供頂いた同窓会特製の記念品が配られた。

「中高は男女共学化や五橋キャンパス開学で、母校は今大きな節目の時、この喜びを共有するとともに、我が TG 会として最大のエールを送りたいと思います」との渡邊敏之会長の開会の挨拶で岩切 TG 会が始まった。その五橋新キャンパスについては、出席者の一番の関心事でもあるので会議開始前に時間を作り、お忙しいなか駆けつけていただいた母校学務部長の平野幹雄先生に詳しく紹介いただいた。そして横田恭一議長の下、総会では全ての議案が満場一致で承認され、舞台は懇親の場へ。

乾杯の発声は、吉川時夫副会長。たちまち話の輪が広がり、4 つのテーブルは笑い声に包まれた。歓談の合間には、この度役員を退任されることになった石森公夫さん、中村仁さんが、会の設立時の苦労話を昔懐かしくお話いただき、また、新たに役員に

なられた加藤吾一さん、山田定道さんは自己紹介の後「楽しい同窓会にしましょう」と呼びかけた。「久しぶりです！」と挨拶された清野一昭さんは、入院のため欠席された大友作夫さんの義理の息子さん。本会最高齢の大友さんは今総会をもって役員を退任される。そして、渡辺敏之会長に指名されマイクを握った熊谷康さん。その渡辺会長の子供のころのエピソードをおもしろおかしく語られ、会場を笑いの渦に巻き込んだ。

この度の役員改選では、本会前会長の山田清一さんも退任される。会の設立にご尽力された山田さんには、会長退任後も顧問としていろいろと相談に乗っていただいた。

懇親会の半ばあたりで、なんとも心地よいギターの音色。鈴木健治さんの「夜霧のしのび逢い」だ。皆しばし会話を中断し聞き入る。演奏が終わると我に帰ったようにまた話し出す。

こんな感じで、予定していた2時間が瞬く間に通り過ぎた。

外は季節外れの雪になるかもしれない。出席者の帰り足のこと考えなければならぬ。

校歌は3番までを全力で合唱した。もうコロナに遠慮する必要もない。

締めは永野昌一副会長。「久しぶりの再会の機会を作ってもらって感謝」と挨拶され、令和6年度総会・懇親会はお開きとなった。

岩切TG会伝統の全員による後片付けも終わって、本日のプログラムの全てを終了。

会場の照明を落とし、暖房のスイッチに手をやると、すでに誰かによって切られていた。外は真冬並の寒さだと言うのに。

「今日の集まりには、暖房など要らなかったんだなあ」

そう思うとなんだか嬉しくなった。